

# タヌキかキツネか？ マゾイはキツネメバル！

魚類部 技師 小 泉 広 明

青森県内に広く分布し「マゾイ」の名称で親しまれている「キツネメバル」はカサゴ目フサカサゴ科の魚で、メバルという和名は大きく張り出した目に由来するそうです。キツネメバルはクロソイ、ウスメバルと同様に卵ではなく赤ちゃんを産む魚（胎生魚）です。これまでキツネメバルの種苗生産については、福島県や（独）水産総合研究センター宮古栽培漁業センターなどで取り組まれています。胎生魚ですから交尾の終了した頃から産仔時期にかけて漁獲された天然親魚を用いて種苗生産を行っています。生きたキツネメバル自体の入手が難しく、産仔直前に漁獲された親魚では、生息水深が比較的に深いこともあり、漁獲や輸送によるストレスから正常な出産（産仔）に結びつかないことが多く、安定した種苗生産に結びついていない現状です。

キツネメバルは平成17年3月に策定された、第5次青森県栽培漁業基本計画において、新たに栽培対象種として選定され、本県において今後の栽培漁業化への取り組みが計画されています。増養殖研究所では（社）青森県栽培漁業振興協会とともに、平成18年度からキツネメバルの種苗生産にむけた研究に取り組んでいます。

ですが先に書きましたとおり、親魚がなかなか手に入らない状況です。水深数十メートルから一気に水面まで引き上げられたキツネメバルは、水圧の急変により体内で浮き袋が膨張するだけでなく、人間で言う「潜水病」の状態だと思われまます。潜水時に緊急浮上した場合の「潜水病」は人間にとっても非常に危険な病気です、時に



写真1 養成中のキツネメバル親魚

は死に直結する状態です。高気圧環境下において生体内に取り込まれたガスが、急激な減圧に伴い過飽和状態になり気泡が形成され、血液の循環が妨げられてしまい、心停止や脳機能障害に陥る訳ですが、魚はその生理的機能の違いでしょうか、これまでウスメバルやキツネメバルの親魚を集めたなかで数パーセントの非常に低い確率ですが、同じ水深から漁獲されたものでもこの症状が軽く生き残るものがあり、これらを親魚候補として集めています。このような中で県内各地の定置網入網した魚体を提供頂くなどのご協力を頂き、現在49個体の親魚候補を集めることが出来ました。

なかには40cm以上とキツネメバルにしては非常に大型の個体もあり、腹部が膨らんだ様子から、天然で交尾し体内で仔魚の発生が進んでいることが予想されます。最近、北海道大学の研究によりキツネメバルの年齢と成長が確認され、体長35cmの個体が36才であったと報告されています。

現在、キツネメバル親魚の飼育を行っている（社）青森県栽培漁業振興協会の福田サンによれば、非常に「人なつっこい」そうで、陸上水槽での飼育環境にも直ぐに馴れて、飼育開始まもなくから餌をやるために水槽に近づくと集まってきて、まるで餌をおねだりするよう上を向き、つぶらなひとみで見つめられるそうです。

この原稿がみなさんの目に触れる頃にはキツネメバルの産仔時期を迎え、全長5mm前後と小さいながら元気に泳ぐ仔魚の姿が見られることと思います。



写真2 35cm以上の大型親魚候補  
（写真提供：（社）青森県栽培漁業振興協会）